

# 千西一遇

第82号  
発行  
2021年  
8月26日(木)  
上田西高校  
新聞委員会  
編集局

編集局長:堀内日子  
新聞委員長:橋爪こ葉

辺見 咲良  
豊田 葵  
小澤紗也華

# 天理大学ラグビー部

## 2年ぶり菅平へ

天理大学ラグビー部が2年ぶりに夏の菅平に帰ってきた。昨年は部内で新型コロナウイルスの集団感染が発生し菅平合宿を断念。しかし逆境を乗り越え悲願の大学日本一を達成した。編集局ではコロナ禍での苦境や大学日本一への道のりなどを取材した。天理大の宿泊先である菅平プリンスホテルの大久保専務にも話を聞いた。

**天理大学ラグビー部**  
1925年創部 第48回ラグビーフットボール選手権大会(2011年)準優勝、第55回大会(2018年)準優勝、第57回大会(2020年)優勝 卒業生には元ラグビー日本代表主将の立川理道をはじめ、木津悠輔、シオサイヤ・フィフィタなど。監督:小松節夫



マイボールラインアウトからモールを形成し敵インゴールに迫る天理大学フォワード陣(赤のジャージ) 対明治大学 撮影=豊田 葵

昨年に引き続き、新型コロナウイルスの影響で菅平の人影は例年に比べまばらだ。昨年取材を行った菅平プリンスホテルに今年の夏、新型コロナウイルス蔓延前の2、3割まで増えたという。しかし、GWは人があまり出入りせず、日帰りの観光客も多く収入は例年の半分程度と苦しい現状が続いている。ホテルでは1部屋に泊まれる人数を制限し、飛沫



菅平プリンスホテルの大久保専務 撮影=豊田 葵

### 夏の菅平 今年も人はまばら

今年2年ぶりに天理大学が合宿に訪れた。涼しい環境で、沢山のグラウンドがあり、強いチームも集まってくる、こんな素晴らしい所は世界中にここしかない(大久保専務は)さらにフレンドリーで、学生たちの気持ちを引き出してくれる。学生たちも専務に会うのを楽しみにしている」と続けた。選手達も専務を「めっちゃくちゃ面白い」と話していた。大久保専務をはじめ、従業員の人もプリンズホテルの魅力の1つだ。

最後に、上田西高校の卒業生でもある大久保専務はコロナ禍の中で学生生活について「活動できなかった悔しい思いや苦労した思いをマイナスに捉えるんじゃないで、必ずバネにしてこれからの生活、人生に生かしてほしい」と西高生にエールを送った。(豊田 葵)

強さの秘訣は私生活  
昨年度の大学選手権で初優勝を挙げた天理大学。関西のチームが優勝するのは難しいと言われた中36年ぶりに関西から誕生した王者の強さの秘訣を探った。天理大では150名を超える部員全員が寮生活を送る。小松監督はその目的を、全員で一緒にご飯を食べて、一緒に生活し、グラウンド以外でもコミュニケーションをとる。楽しいだけでなく

前年40分、モールからトライを決める天理大学の選手達 対明治大学練習試合 8月22日菅平サニパーク 撮影=豊田 葵



取材に応じてくれた天理大学ラグビー部を率いる小松節夫監督 撮影=豊田 葵

天理大学ラグビー部は、昨年8月に寮で新型コロナウイルスのクラスターが発生し、活動が大幅に制限された。活動再開には約1ヶ月を要したが、小松節夫監督は当時を「色んな大学の方や保健所の方に助けられたおかげで活動を再開できた」と感謝の言葉を口に振り返った。また、「一人一人が、休みの時期にも出来る限りのことをし、早く復活して一度チームを作り直して『日本一』という目標をぶらさずにつけていこう」と選手らに声かけをしたそうだ。活動が再開し、コロナ禍で開

幕が11月となった関西大学リーグで天理大学は見事に優勝し、大学日本一を決める大学選手権に出場。惜しくも準優勝となった2011年と2018年、4強で敗退した2019年の悔しさをバネに成長を遂げたチームは優勝し、3度目の挑戦で見事目標の『日本一』の栄冠を勝ち取った。昨年度の大学日本一を佐藤康主将は「最初は優勝したという実感が湧かなかったが、後に『おめでとう』と言われて美しかった」と振り返った。

天理大の次なる目標は連覇。「2連覇は去年優勝している天理にしかない権利だから2連覇を目指したい。我々の目標は毎年『日本一』になることなので今年もう一度日本一になると小松監督は意気込みを話した。今夏の合宿は全員が新型コロナウイルスのワクチンを接種し、万全な状態で迎えた。今後も引き続きマスク着用・手洗いが徹底や、外部の人とできるだけ会わないようにするなどといった感染対策を講じ、目標に向かって日々練習を重ねている。最後にコロナ禍を過ごす学生に向けて小松監督は「不安な中でできることをやらないと悔いが残る。例えば感染しても復活を信じて目の前のできることを一生懸命にやってほしい」と佐藤主将は「コロナ禍にストレスを感じるかもしれないが仕方ない部分もある。いまある環境に感謝して頑張ってほしい」とそれぞれ話した。(小澤紗也華)

### 集団感染乗り越え悲願の大学日本一を達成

最後に、上田西高校の卒業生でもある大久保専務はコロナ禍の中で学生生活について「活動できなかった悔しい思いや苦労した思いをマイナスに捉えるんじゃないで、必ずバネにしてこれからの生活、人生に生かしてほしい」と西高生にエールを送った。(豊田 葵)